

議会行政視察研修報告 (総務建設・文教厚生 委員会合同)

日時 平成 25 年 7 月 1 日(月) ~ 3 日(水)

研修先

1 総務建設委員会 (福岡県八女市) 予約型乗り合いタクシー

デマンド交通といわれているバス停も持たない時刻表もないドア to ドア式の乗合タクシーをいつの日にか、この牧之原市にも走らせようと活動しています。

今回の視察先は、八女市です。八女市は、隣の市町まで出向かないと電車に乗れない鉄道の駅がない市です。1市2町2村が合併し人口約75,000人、高齢化率30.3%、面積は牧之原市の約4倍の482平方kmです。既存の路線バスのバス停から3~4km離れたところに20~40戸の集落が点在する土地です。

市の抱えているバス路線の赤字合計金額は、約9千万円でバス路線の廃止や便数調整を行って赤字分をデマンド交通の経費に充て運行を始めました。市内を12のエリアに分け12台の車両で対応をしています。「タクシーの便利さでバスの料金で利用できる」を売りに、現在では利用者・利用率を着実に伸ばしています。私たちの行っているアンケート結果の数値の読み方にもわかりやすいアドバイスを頂きました。

自動車の運転ができるうちは、どんな田舎でも生活には困りません。自分でできなくなると途端に買い物も通院もできなくなる土地柄で、デマンド交通を構築、実施した職員から熱いものを感じた研修でした。

2 文教厚生委員会 (熊本県玉名市) たまな元気会

牧之原市では、平成25年度現在高齢化率が、25.6%。老人会が無くなった地域や、市老連への加入状況も減っています。

今回の視察地、玉名市は人口約7万人、高齢化率29%です。市内にある九州看護福祉大学の支援を受け、行政主導で始まったワークショップから、「高齢者元気づくり(生涯現役)運動」が生まれ定着しました。

各自治区では、地域の特徴を活かした活動に取り組んでおり、その例を挙げると、体操・グランドゴルフ・ウォーキング大会・男性料理教室・中学校の放課後にパソコン教室・山歩きバーベキュー・健康カラオケなど多岐にわたるものでした。

その他に、小学生と合同のシルバーオリンピックやシルバーヘルパーとしての活動、市役所での交流会などがあり、それぞれの活動を楽しんでいるようでした。

老人会と連動した『たまな元気会』では役員はどのように選出しているかを質問すると、「人材は発掘するものだ。」「一級品の趣味を持っている人などを掘り起こし育てること。」の答えをいただきました。

牧之原市でも高齢者が、もっと元気に生活できる街となれば、若い人達も活気ある街づくりに力を注いでくれるのではないかと思われる視察でした。

3 友好都市 表敬訪問（熊本県人吉市）

友好都市熊本県人吉市は「九州の小京都」と呼ばれ、今もなお落ち着いた城下町のたたずまいを残している美しいまちで、市庁舎は球磨川を天然の堀とした城跡「人吉城公園」の西側に位置しています。

私たちは今回の訪問で2つの大切なことを学ばせていただきました。そのひとつは「おもてなしの心」です。私たちは到着すると早速、全職員に庁舎入口から3階の交流会会場まで鳴りやむことのない拍手の嵐で迎えていただきました。会場にはこの日のために大きな生花が飾られており、議会と市幹部職員の皆さまに大歓迎を受けました。

交流会の次は市内視察です。人吉城歴史館では市長自らが案内役を買って出られ熱弁を振るっての説明です。ここで、もうひとつの「歴史を大事にする心」を学びました。

伝統に甘んじることなく、相良氏700年の歴史を大切に、自分たちは後世に何を残せるかと問いながら「自然と相良文化が輝く美しき千年都市ひとよし」を目指すべき将来都市像として掲げている人吉市の姿を私たちは大いに見習わなければならないと思いました。



ふる里タクシー予約センター



たまな元気会の活動を伺う



田中市長自らが説明



相良家の菩提寺願成寺